

院内感染防止対策委員会ニュース 52号

コロナワクチンについて

発行日 2021年 4月
発行 ふくの若葉病院 院内感染防止対策委員会

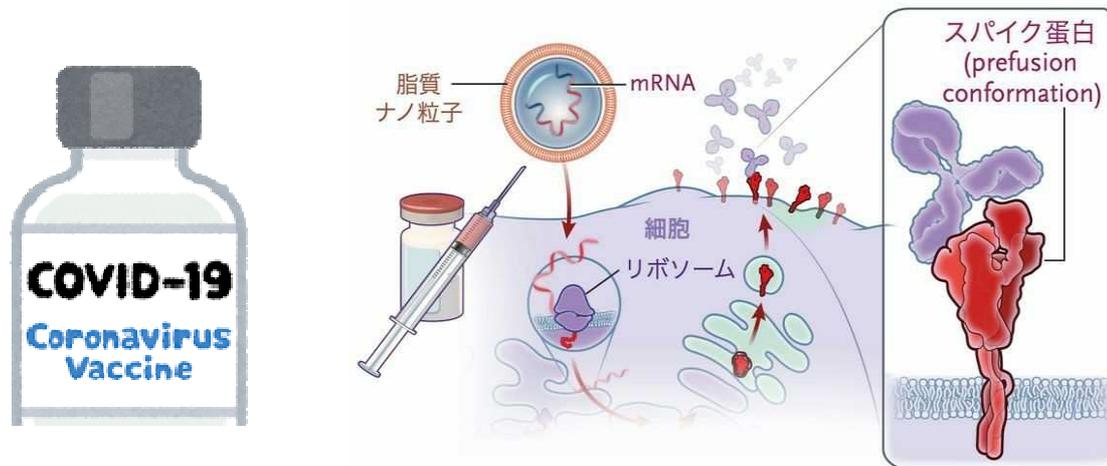
2月14日にファイザー社の新型コロナワクチンが承認され、2月17日からは医療従事者への接種が始まりました
このワクチンについて現段階で分かっていることをまとめてみました

Q. 承認されたファイザーのワクチンはどんなワクチン？

A. mRNAワクチンという新しい技術を用いたワクチンです

今回日本で承認されたファイザー社/ビオンテック社が開発したワクチン(BNT162b2)はm(メッセンジャー)RNAワクチンという新しい技術を用いたワクチンです

生きたウイルスはワクチンの中には入っておらず、また遺伝情子を体内に接種すると言っても、それによって人間の遺伝子の情報に変化が加わることもありません



Q. 新型コロナワクチンの効果は？

A. 新型コロナを発症するリスクが20分の1になります

発症予防効果は95%です。この95%という数字は他のワクチンと比べても非常に高いものであり、例えば、最も効果が高いワクチンの一つである麻疹ワクチンの予防効果と同程度です

Q. 接種後、どれくらいで効果が出る？

A. 初回の接種から約2週間で効果が出てくるようです

Q. どれくらいの間隔を空けて何回接種する？

A. 21日間(3週間)の間隔を空けて2回接種します

Q. ワクチンを接種した人は新型コロナを発症しない？

A. ワクチン接種者でも発症することはありますが、重症化しにくくなります

ワクチンの効果には発症を防ぐ効果とは別に「重症化を防ぐ効果」も期待されます。発症を防ぐことはできなくても、ワクチンを接種することで重症化を防げるようになれば、それだけで非常に大きな価値があります

Q. 副反応はどれくらいの頻度で起こるの？

A. 接種部位や全身のなんらかの副反応は半分以上の人にみられます

ファイザー社のmRNAワクチンは基本的には安全性に大きな問題はないと考えられています

しかし、どんなワクチンであっても100%安全なものはありません

報告によると、接種部位の痛みが最も頻度が高く(67.7~74.8%)、次いでだるさ、頭痛、筋肉痛、寒気、発熱、接種部位の腫れ、関節痛、吐き気などみられることもあるようです。これはインフルエンザワクチンと比べてもかなり副反応の頻度が高いと言えます



Q. アナフィラキシーが起こる頻度は？

A. 20万人に1人程度です

最も懸念される副反応はアナフィラキシーなどのアレルギー反応です。およそ20万人に1人にアナフィラキシー反応が起こる計算になります

インフルエンザワクチンなど一般的なワクチンのアナフィラキシー反応の頻度は「100万人に1人」程度とされていますので、それと比べると頻度は高いと言えるでしょう。しかし、例えばペニシリンという抗生物質では5000人に1人くらいの頻度で重度のアレルギー反応が起こるのと比べると、決して頻度が高い訳ではありません

アナフィラキシー反応を起こす人ではサルファ剤や卵などなんらかのアレルギーがあったり、過去にアナフィラキシーを起こしたことがある人で多くみられることが分かっています

Q. ワクチンを接種して亡くなった人がいるって聞いたけど？

A. ワクチン接種との因果関係はないと考えられているようです

ワクチン接種が原因で亡くなった、と判断された方はまだいません

Q. 筋肉注射って受けたことないけど安全なの？

A. 海外では皮下注射よりも筋肉注射の方が一般的なワクチン接種法であり、安全性は確立されています

筋注の方が

・抗体産生が良好であること

・副反応が少ないこと

Q. イギリス、南アフリカ、ブラジルの変異株にもワクチンは有効？

A. イギリス変異株にはおそらく有効ですが、南アフリカ、ブラジル変異株に対しては有効性低下が懸念されています

Q. 予防接種したからもう安心？

A. NO！ワクチンを接種をしてもコロナに感染しないわけではなく、2回接種後に感染した例もあります

接種後も、今までと同じ予防対策を続けてください



参考文献

- New England Journal of Medicine. [Covid-19 Vaccine — Frequently Asked Questions](#)
- 一般社団法人日本感染症学会 ワクチン委員会 [COVID-19 ワクチンに関する提言\(第1版\)](#)